

クレジット:

UTokyo Online Education 東京大学朝日講座 2020 堀江 宗正

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



日本人は寛容か——不安から不寛容へ

堀江宗正（死生学・応用倫理センター）

ヴォルテール『寛容論』

第4章 寛容は危険なものなのか、また、寛容を重んずる民族は存在するか
～寛容は混乱をもたらすという意見への反論

宗教改革後の残酷な宗教戦争（1561 フランスのユグノー戦争、1598 ナントの勅令、しかしプロテスタントへの迫害・虐殺は続く）

中世：ローマ・カトリック教会、神聖ローマ皇帝

宗教改革→プロテスタントの迫害→保護する領主→戦争

世俗君主がカトリックかプロテスタントかで、領内の異教徒は迫害

→次第に寛容の例も

オスマン帝国（トルコ）の多民族統治～異なる宗教の共存

インド、ペルシア、タタールでも異教徒に寛容

中国における三教談論、三教一致（儒教、仏教、道教）

イエズス会士は不寛容だったために追放される。しかし安全は保証

日本人は全人類のうちでもっとも寛容

12の宗教〔宗派を指すと思われる〕が定着

自分たちの宗教しか認めないイエズス会士が13番目の宗派となったが、内乱

追放され、鎖国へ

ヴォルテールは、中国も日本も寛容だからイエズス会士を追放したと見る

しかし、現代日本人から見れば、キリシタン迫害は不寛容では？

第22章 誰に対しても寛容でありたい

「すべての人間を自分の兄弟と見なすべき」～皆同じ神の被造物だから
～一神教ゆえの人間の平等が寛容の基礎。しかし、それを信じなければならぬ
ということなら不寛容にもなりうる。

同じ小さな蟻なのに、神が愛しているのは自分の蟻塚で、他の蟻塚は永遠に不幸

イスラム教指導者と仏教の修行僧なら「そんな馬鹿げた話、狂人」というが、
「狂っているのは、あなたたち」

～不寛容な寛容論？

異教徒の偉人であっても最後の審判で罰され、世俗法ですでに罰されたキリスト教徒は天国で幸せに暮らせるのか

光文社文庫の解説（福島清紀）

17世紀のフランス語辞典「寛容」は、「異端者」をどの程度まで「許容（tolérer）」すべきか、もしくは「許容」すべきでないかという問題をめぐって激論を重ねてきた神学者たちの間で、「何年か前から頻繁に使用されるようになった語」（ヴォルテール『寛容論（古典新訳文庫）』齊藤悦則訳、光文社、2016年、300頁）

～＜受容しがたい他者を許容すること＞

多様性が人間の自然な姿＝自然法

人間の有限性（小ささ）ゆえに他者を断罪することは不可能
理性に基づけば寛容に。不寛容は狂信の証拠

教義の内容はさておき、共存を目指すのが一般的な寛容

ヴォルテールの寛容は、理神論的な教義を押しつける？

堀江宗正「日本人は他宗教に寛容なのか？」（『現代日本の宗教事情』岩波書店、2018年）

一神教批判＝排他的な一神教が宗教対立の原因

多神教称揚＝世界が多神教的になれば平和に

事実誤認

- 1 一神教同士が自分の神を掲げて争っている→同じ神を信仰
- 2 一神教は砂漠的風土に影響され戦闘的→古代オリエントは多神教ばかり
- 3 多神教の日本は他宗教に寛容

→反証：仏教の受容をめぐる蘇我氏と物部氏の争い、鎌倉期における念仏弾圧、日蓮による他宗批判と鎌倉幕府による日蓮の弾圧、戦国時代の武装した寺社勢力、織田信長による比叡山攻撃、徳川幕府によるキリシタン迫害、戦前の政府による宗教の統制や弾圧、諸宗教による戦争への積極的協力、そして近年ではオウム真理教による殺人事件やテロ攻撃

- 4 日本人は多神教徒→一神教的性格も（浄土教の阿弥陀信仰、創価学会の本仏論、神道系新宗教の根本神）

「多神教」で念頭に置かれているのは「八百万の神」を祀る神道→国家神道体制

日本人の他宗教への寛容は、宗教への無知・無理解・無関心にもとづいており、熱心な信者に対しては不寛容

「寛容」の強制：自衛官護国神社合祀事件

自衛官の妻、キリスト教徒、夫が護国神社に合祀された、信教の自由の侵害とし、合祀取り消しを求める

「非国民は日本に住むな」「死ね」という手紙や電話が殺到

[今日の SNS と同じだが、ネットより手紙や電話の方が怖い]

この妻は、「あらゆる宗教に寛容である」「日本人の伝統」に従うべきという意見

最高裁：合祀は宗教ではないから、信教の自由の侵害ではなく、人格権の衝突。不快感を持ったとしても多数派が合意する寛容に従うべき

世界価値観調査のデータを用いた比較

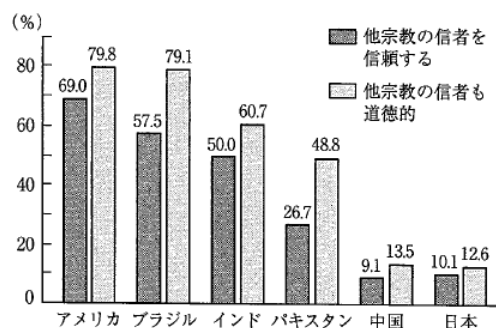


図1 各国の他宗教への寛容度(%)
出典：World Values Survey Wave 6: 2010-2014
より筆者作図。

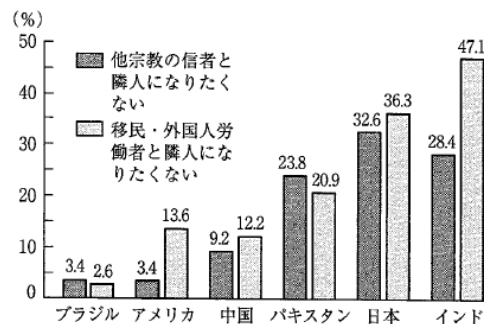


図2 各国の他宗教への嫌悪度(%)
出典：World Values Survey Wave 6: 2010-2014
より筆者作図。

堀江宗正編『現代日本の宗教事情〈国内編I〉(いま宗教に向きあう1)』岩波書店、2018年、211頁

比較対象：人口の多い国五カ国、宗教情勢が異なる国

無神論の強い中国、多神教のモンスーンの風土と論じられてきたインド、プロテスタントが主流だが多民族国家のアメリカ、カトリックが多いが「人種のるつぼ」と言われるブラジル、ムスリムが多くインドと対立しているパキスタン

→一神教の信者の多い、アメリカ、ブラジルは他国より寛容。日本は最低レベル

この論考をツイッターで紹介したら、予想しない反応が

<https://twitter.com/NorichikaHorie/status/1052694686324940800/>

「リベラルにも相通じるなあ。「寛容」を是とする側が実は不寛容というのはよくある話。」

～レイシスト批判を「日本人差別」と呼ぶたぐいのリベラルは不寛容という言説
中国語「法制度を超脱しようとするすべての行動の不寛容は、社会秩序維持に不可欠」

～中国政府の宗教弾圧を正当化？（普段は日本語で書いているアカウント）

現在の不安から不寛容への動き

- ・コロナ禍での日米における反中国姿勢の強化
- ・「自粛警察」＝過度な自粛を求めて、落書きや貼り紙や脅迫や破壊行為など、かえって違法行為をおこなってしまうこと

形式的寛容：嫌な思想だけど我慢する

思想的寛容：寛容な思想を求める（場合によっては不寛容に）

多数派か少数派か：多数派への寛容よりも、少数派への寛容の方が優先

グループワークのテーマ

「寛容を押しつけるのは不寛容だ、という言説に対する反論と再反論を考えてください。時間があれば、最終的な自分の意見とその理由について話し合ってください。」

cf. ヴォルテールの寛容、一神教批判、多神教は寛容、多数派の寛容に従わなければ非国民、レイシスト批判は日本人差別